

### 6 領聖前の祈祷文

神の子や、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給え。  
 ② 蓋我爾の仇に機密を告げざらん、又爾にイウダの如き接吻をなさざらん。④ 乃右盜の如く爾を承け認めて曰う、主や、爾の国に於て我を記憶せよと。  
 主や、祈る爾の聖なる機密を領くるは、⑤ 我が為に審案或は定罪とならず、乃靈體の醫とならんことを。アミン。

### 7 領聖後の感謝の祈祷

⑥ 主宰ハリストス、神、萬世の王、萬物の造成者や、凡そ我に賜いし所の諸善、且生命を施す至浄なる爾の機密を領けさせ給いしを爾に感謝す。又爾に祈る、善にして人を愛する主や、我を爾が庇の下に、爾が翼の蔭に護り、我に呼吸の絶えんとするに至る迄、潔き良心を以て、⑦ 当然に爾の聖体聖血を領け、以て罪の赦と永生とを得るを致させ給え。蓋爾は生命

の糧、成聖の泉、諸善を賜う主なり、我等爾と父と聖神とに光栄を献ず、今も何時も世世に。アミン。

言葉の解説(内田神父 付記)

- ① 機密の筵とは現に行われている聖体礼儀の場であり、同時にハリストスと使徒たちの機密の晩餐(俗に「最後の晩餐」と言われる)であり、神の国の集いです。このハリストスの筵には使徒だけでなく、諸聖人、また私たちが記憶する永眠者も集まっています。世界中の、過去に行われた、また現在行われている聖体礼儀が、全て機密の筵に繋がっています。天国とはこの、神と人々との繋がりにあるのです。
- ② 機密を實行するのは神ご自身です。司祭も含め、私たちは招かれているだけです。ですから私たちの判断で、神を認めない人に領聖させたり、逆に理由なく信徒の領聖を拒んだりすることはできません。招かれた人は謙虚に感謝します。
- ③ イウダは愛のしるしであるはずの接吻を、ハリストスを迫害者に渡す合図にしてしまいました。私たちは神の愛によって与えられる聖なる食事を、神を愛し感謝していただくなくてはなりません。
- ④ 右盜とは、ハリストスの右隣で処刑された人のことです。とても悪い盗賊でしたが、処刑される間際に悔い改めました(ルカ福音書23章)。心から悔い改めるならば、神はどんな人でも機密の筵(天国)に招いてくださいます。
- ⑤ 審案の無いよう祈る、とは小さな罪も残らず赦されることを祈ることです。神の愛を疑うことも罪であり、機密を軽んじることは癒しの妨げになってしまいます。聖体機密が私たちの霊と体、全てを癒し善くしてくれることを心から信じます。
- ⑥ ハリストスは聖体礼儀の主宰者であり、見えると見えざる全ての世界の主宰者です。私たちは聖体礼儀に招かれ、信徒の愛の一致のうちに領聖しました。聖堂から出てからは周りの人を教会に招くため、普段の生活で隣人愛を發揮します。それができる力を、私たちは領聖によって与えられたのです。
- ⑦ 当然とは、私たち人間の側からの当然ではありません。神様は私たちが善き者として創造され、当然無罪と永生を得るはずでした。しかし私たちは神の護りを疎んじ、当然のことが得られないのです。神様を心から恃むことが必要です。